

第6学年 国語科学習指導案

日時：令和5年10月11日（水）

第5校時

対象：第6学年1組 28名

授業者：藤橋 研

会場：6年1組 教室

1 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書き、広げよう

教材名 「やまなし」

2 単元の目標

- 比喻や擬声語・擬態語などの表現の工夫に気付くことができる。 【知識及び技能】(1)ク
- 物語の構成と対比について理解することができる。 【知識及び技能】(1)ク
- 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
【思考力、判断力、表現力等】C(1)エ
- 文章を読んで理解したことに基づく考えをまとめ、共有し、自分の考えを広げることができる。
【思考力、判断力、表現力等】C(1)カ
- 表現や物語の構成要素等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、自分の考えを書こうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 比喻や擬声語・擬態語などの表現の工夫に気付いている。	① 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。	① 表現や物語の構成要素等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、自分の考えを書こうとしている。
② 物語の構成と対比について理解している。	② 文章を読んで理解したことに基づく考えをまとめ、共有し、自分の考えを広げることができる。	

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示) 第2章 第1節 国語〔第5学年及び第6学年〕

[知識及び技能]

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。
ク 比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。

[思考力、判断力、表現力]

C 読むこと

- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

を受けて設定した。

「具体的に想像する」活動においては、「何が書かれているか。」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目させる。「表現の効果を考えたりする」活動においては、「暗示性の高い表現」を中心に思考させるようにする。「自分の考えを広げる」活動においては、友達のを考えを取り上げ、それについて自分がどのように考えたのかを書くようにする。

(2) 児童観

① 全国学力・学習状況調査の結果から

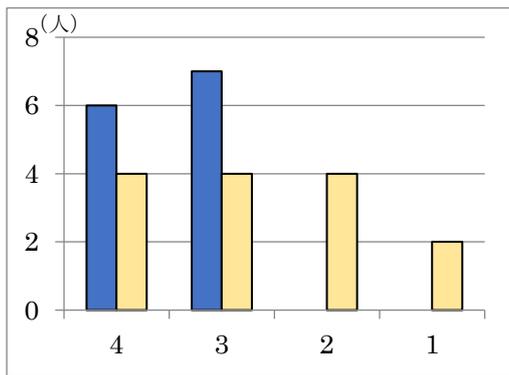
全国学力・学習状況調査において、本単元の学習内容と関連する問題は、設問2の四であった。この設問は、学習指導要領の「C 読むこと オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」に基づいて作成されている。

本学級の児童の回答結果を見ると、27名のうち11名が無答であった。無答であることの主な原因として、次のことが挙げられる。第一に、どのように書いたらよいのかが分からないこと。第二に、文章からどのように情報を読み取ればよいのかが分からないこと。第三に、このような問題に不慣れであること。

これらの三つの原因を解決するための手立てを講じることで、単元目標と研究主題の達成を図りたい。

② 「全国学力・学習状況調査」と「児童・生徒の学力向上を図るための調査」のクロス集計の結果から

本校では、「全国学力・学習状況調査」(以下「国調査」という。)と「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(以下「都調査」という。)の結果をクロス集計し、国調査における「正答率」と都調査における「学び方」の関連を集計し、分析している。設問2の四(国調査)と「他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。」(都調査)との関連は、以下の結果だった。



「国調査」国語 設問2の四

複数の条件のもとに、文字数を考えて自分の考えを文章で書く問題

■が正答、■が誤答を表す。

「都調査」6(4)

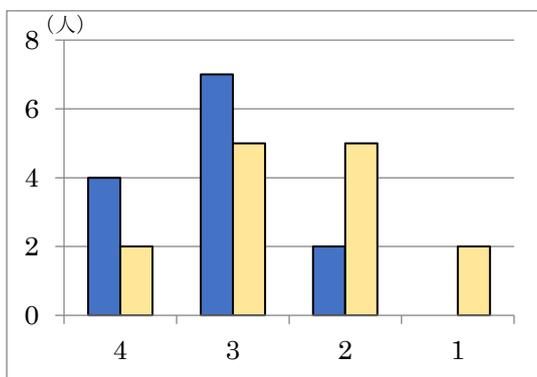
「他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。」

4…当てはまる/3…どちらかといえば当てはまる

2…どちらかといえば当てはまらない/1…当てはまらない

上のグラフから、次のことが分かる。第一に、正答している児童は、他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしていること第二に、誤答している児童は、他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしていないということ。これらの内容から、「他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書く」ことができる児童ほど正答率が高いと言える。

また、設問2の四（国調査）と「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。」（都調査）との関連は、以下の結果だった。



「国調査」国語 設問2の四

複数の条件のもとに、文字数を考えて自分の考えを文章で書く問題

■が正答、■が誤答を表す。

「都調査」6(6)

「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。」

4…当てはまる/3…どちらかといえば当てはまる

2…どちらかといえば当てはまらない/1…当てはまらない

上のグラフから、次のことが分かる。第一に、正答している児童の13名のうち11名は、他の人に説明していること。第二に、説明していない児童9名のうち7名は誤答していること。これらの内容から、「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明する」ことができる児童ほど、正答率が高いと言える。

以上の内容から、「他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書く」ことと、「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明する」活動を行い、単元目標と研究主題の達成を図りたい。

(3) 教材観

教材文『やまなし』は、一人称視点から三人称視点へ、三人称視点から一人称視点へ移る額縁構造で描かれている。授業するにあたり、教材文が描かれている視点、対比構造と対比されているもの、比喩、色彩表現、主題等を扱い、児童が内容の理解をできるように努める。

本単元では叙述を基にして自分の考えを書き、それを友達に伝えることや友達の考えを聞くことを通して、自分の考えを広げることを主たる目標としている。そのため、「叙述を基に自分の考えをもつ」、「自分の考えを友達と共有する」、「友達の考えに対する自分の考えをもつ」ことを一単位時間における一つのサイクルとし、単元目標と研究主題の達成を図りたい。

5 研究主題との関連

(1) 研究主題

学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える
～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

(2) 研究主題を受けた目指す児童像

○自らの学習を調整しながら、粘り強く、課題に取り組むことができる子

〔学びに向かう力が育成された児童の姿〕

ア 課題に対して試行錯誤しながら諦めずに取り組むことができる。

イ 課題に取り組む際に、自分である程度の見通しをもって取り組むことができる。

(3) 目指す児童像に迫るための研究仮説

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」から、児童の実態を把握し、実態に適した学習内容の工夫をすることで、児童が主体的に学習に取り組むようになるであろう。

(4) 目指す児童像に迫るための具体的な手だてと、ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度

【コミュニケーションを行う力】

- ・グループで意見を交換し合う機会を設定し、友達の考えを共感的に受けとめるとともに、課題を追究することができるようにする。
- ・分かりやすく友達に説明するために、一人で考える時間を十分に設定し、自分の考えをまとめた上で話し合いの活動を行うようにする。

【多面的、総合的に考える力】

- ・振り返りをする際、友達の意見から自分が考えたこと、感じたことをまとめる時間を十分に設定する。
- ・タブレット型端末に児童の考えをまとめさせることで、叙述から読み取った情報を整理しやすくする。

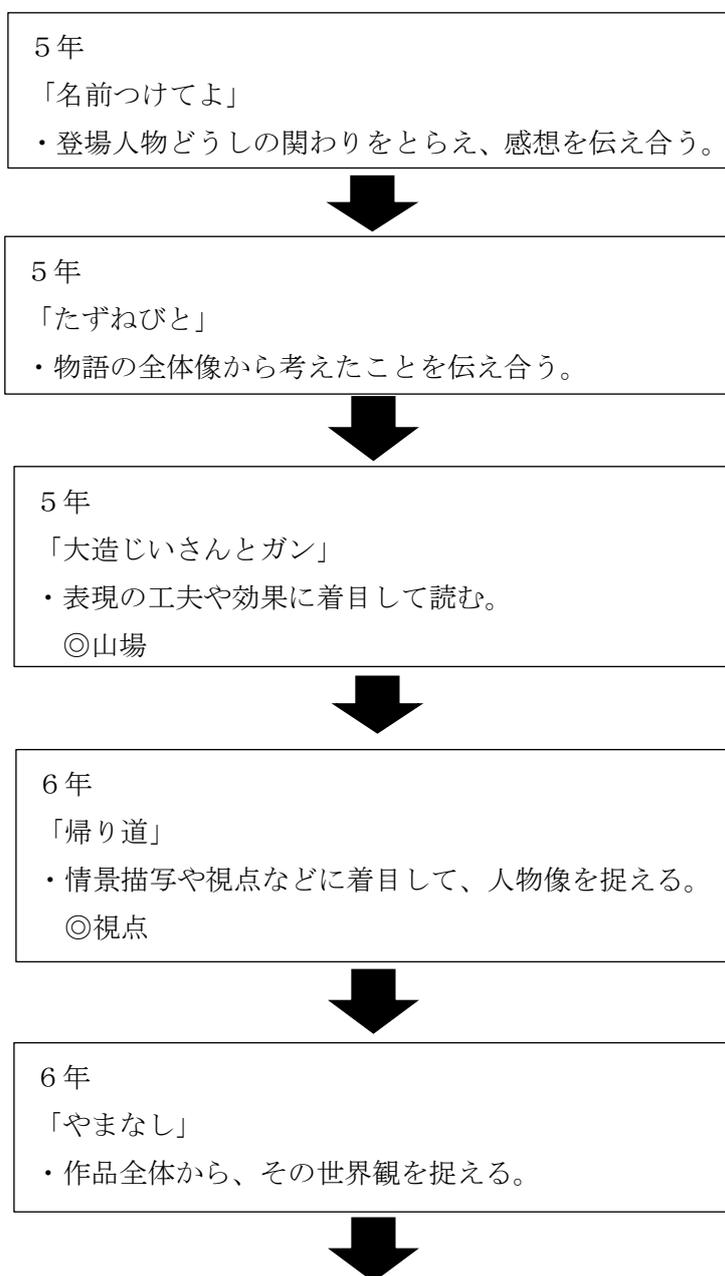
- ・タブレット型端末に児童の考えをまとめさせることで、互いの意見を相互閲覧できるようにし、自分の考えを広げやすくする。

【すすんで参加する態度】

- ・教材文「やまなし」の作品世界を捉えるために重要となる内容（視点、対比、色彩表現等）を、例を示しながら段階的に指導することで、児童一人一人がすすんで学習に参加できるようにする。
- ・児童の学習進度や実態に応じて、発問や設定する課題を調節することで、達成感を味わえるようにするとともに、学習意欲を引き出していく。

6 年間指導計画における位置付け

◎：その単元での学習用語



6年
「海の命」
・作品について語り合い、読みを広げる。



中学1年
・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。(知(1)オ)
・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。(思C(1)エ)
・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事。(思C(1)オ)

7 単元の指導計画と評価計画 (全8時間)

次	時	目標	主な学習活動	評価規準(評価方法)		
				ア	イ	ウ
第一次	第1時	「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を知る。	①「イーハトーヴの夢」を読む。 ②「イーハトーヴの夢」を読んだ感想を書く。 ③「雨ニモマケズ」など宮沢賢治の他の作品について紹介する。			① (発言・ノート)
	第2時	「やまなし」を読み、物語の中心となる語句や分からない語句について調べ、ノートにまとめる。	①やまなし、かわせみ等、物語の中心となる語句について調べ、イメージをもつ。 ②分からない語句について調べる。 ③上 ^{かみ} 、上がる、上るの読み方と意味について知る。			① (発言・ノート)
第二次	第3時	物語における比喩や擬声語・擬態語などの表現の工夫に気付き、その効果について考えたことを書くことができる。	①比喩とは何かを確認する。 ②擬声語・擬態語について確認する。 ③物語における比喩や擬声語・擬態語を見付け、線を引く。 ④これらの表現の効果について考える。	① (発言・タブレット型端末)	① (発言・タブレット型端末)	

	第4時	物語の語り手の視点について考え、物語全体の構成について理解することができる。	①語り手の視点については、一人称視点と三人称視点とがあったことを確認する。 ②「やまなし」はどの視点から描かれているのかを考える。 ③視点で考えたことをもとに、物語全体の構成について考える。			① (発言・ノート)
第三次	第5時	物語における対比構造について、五月と十二月の谷川の底の様子を手掛かりに理解することができる。	①対比とは何かを確認する。 ②五月と十二月の季節や時間帯についてそれぞれ叙述を基に整理する。	② (発言・ノート)		
	第6時	物語における対比構造について、五月と十二月のかにの会話や様子を手掛かりに理解することができる。	①五月と十二月のかにの会話や様子について整理する。 ②上から来たものが何であったかを整理する。 ③五月と十二月はそれぞれどのような世界を描いているのかを考える。	② (発言・ノート)	① (発言・タブレット型端末)	
	第7時(本時)	物語における対比構造に基づき、五月と十二月の場面に描かれている色に着目し、色が象徴しているものは何かを考え、自分の考えを広げることができる。	①五月と十二月に出てくる色について確認する。 ②それぞれの色が何を象徴しているのかを考える。 ③自分の考えを、友達と共有する。 ④友達の考えに対する自分の考えを書く。		① ② (発言・タブレット型端末)	
	第8時	物語における対比構造に基づき、物語の主題について考え、自分の考えを広げることができる。	①五月と十二月の対比構造について確認する。 ②主題とは何かを確認する。 ③「やまなし」における主題は何かを考える。 ④友達の考えに対する自分の考えを書く。		② (発言・タブレット型端末)	① (発言・タブレット型端末)

8 本時（全8時間中の第7時）

(1) 本時の目標

物語における対比構造に基づき、五月と十二月の場面に描かれている色に着目し、色が象徴しているものは何かを考え、自分の考えを広げることができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の考え	◇指導上の留意点 ◆配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○これまでに学習した教材で、情景描写として色が用いられていたことを知る。	◇これまでに学習した教材でも、情景描写として色が用いられていることを知ることで、「やまなし」でも同様に色が用いられていることを理解しやすくする。	
「やまなし」に出てくる色に注目し、その色が何を表しているのかを考えよう。			
展開 (25分)	○やまなしに出てくる色を確認する。 ・青 ・白 ・黒 ・黄金など ○五月の場面の「黒」について考える。 ・「コンパスのように黒くとがっているのも見ました。」とあるので、黒は怖さを表現していると思う。 ・恐怖を表現しているのだと思う。 ○自分で色を選んで、それが何を表現しようとしているのかを考える。 ・「そいつの目が赤かったかい。」の赤は、怖さや強さを表現していると思う。 ・黄金は、安心感を表現していると思う。 ○自分が書いた内容について、班で発表をする。	◇どこに色の表現が出てくるかを確認することで、次の問いを考えやすくする。 ◇全体で考えることで、次の個人での検討を行いやすくする。 ◆タブレット型端末を相互閲覧させることで、友達の意見を参考にしてもよいことを伝える。	イー① (発言・ タブレット 型端末)
振り返り (15分)	○友達の意見を知り、それに対する自分の考えを書く。 ・Aくんの、「青」は「日常の様子」を表しているという意見は、なるほどなと思った。 ・Bさんの、「白」は「安心」を表現しているという意見がいいと思った。	◇タブレット型端末上で、クラスの友達がどのような意見を書いているのかを相互閲覧させ、友達の意見に対する自分の意見を書かせる。	イー② (発言・ タブレット 型端末)

(3) 児童が入力する学習シート

色が何を表しているのかを考えよう。	
1、名前	
2、選んだ文章	「」 ページ 「」 行目
3、色	
4、その色で何を表そうとしているか。	
5、友達の意見から考えたこと	「」の意見

(4) 協議の視点

- ① タブレット型端末の活用は、本時のねらいと単元目標の達成に向けて有効であったか。
- ② 色で表現された情景描写を考えさせるための、発問や言葉掛けは適切であったか。